

[PRESS RELEASE]

2006 年 6 月 9 日
東京大学医学部附属病院
心臓外科

東大病院で 93 歳女性が心室中隔穿孔手術を受け無事退院

～日本最高齢の報告～

東京大学医学部附属病院（以下、東大病院）（*1）心臓外科で、本年 5 月 7 日、都内在住の 93 歳女性に対して、心室中隔穿孔手術を施行しました。心室中隔穿孔は心筋梗塞に稀に合併する重篤な病態で、緊急手術が必要になることが多く、死亡率も 20～50% と非常に高い合併症です。

女性の手術後経過は良好で、6 月 11 日に自宅退院の予定です。93 歳という年齢は心室中隔穿孔手術救命例としては日本で最高齢です。

【背 景】

心室中隔穿孔は急性心筋梗塞の 1% 程度が合併するといわれている、非常に重篤な合併症です。合併症を起こすと心室中隔が壊死し、穿孔を生じて、重症の心不全に陥ります。通常、緊急手術が必要となることが多いが、文献的には手術死亡率が 20～50% と救命が困難な病態です。最近では、心臓外科手術手技や補助手段などの進歩によって、80 歳を超える高齢者に対しても、心臓手術が行われるようになってきていますが、90 歳以上で行うことは非常にまれです。

【手術内容と術後経過】

都内在住の 93 歳の女性は激しい胸痛に襲われて、5 月 5 日に近所の総合病院に緊急入院されました。急性心筋梗塞の診断で治療を受けられたが、翌日に心室中隔穿孔が発症したため、大動脈内バルーンポンプを挿入されて当院へ搬送されてきました。東大病院では、それまでの日常生活が十分に自立していたことを考慮し、5 月 7 日に緊急手術を施行しました。

手術では、人工心肺を使用し心臓を停止させ、心室中隔穿孔部をパッチで閉鎖しました。さらに冠動脈の狭窄に対して、下肢の静脈をグラフトとして用いて、冠動脈バイパス術 2 枝を行いました。

術後検査では、穿孔部は閉鎖され、冠動脈バイパスも 2 枝とも問題がなく、術後経過は

良好です。現在は歩行も可能な状態となっており、6月11日には、自宅退院の予定です。

心室中隔穿孔は高齢者に起こりやすい合併症です。従来の日本における手術救命最高齢は文献上では88歳であり、本症例は日本最高齢の手術救命患者です。

【今後の展望】

85歳、さらには90歳を超える超高齢者であっても、日常生活が自立している場合には、心臓手術を考慮する時代が到来しつつあると思われます。

【注釈】

(*1) 東京大学医学部附属病院 病院長 永井良三 〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1
<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/>

《取材に関するお問合せ先》

東京大学医学部附属病院 広報企画部（担当：安倍）

電話：03-5800-9188（直通） E-mail：pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp

《本件に関するお問合せ先》

東京大学医学部附属病院 心臓外科（担当：小野）

電話：03-3815-5411（代表） 内線：37574 E-mail：ono-tho@h.u-tokyo.ac.jp

※本プレスリリースは患者様の同意を得ております。なお、本リリースに関する患者様への直接の取材はご遠慮下さい。